

日本都市センター 20240703

「都市自治体におけるスポーツを活用した地域振興に関する研究会」
～第2回研究会 宇都宮市におけるスポーツを活用した地域振興について～




住めば
愉快だ
宇都宮
UTSUNOMIYA

宇都宮市 魅力創造部
スポーツ都市推進課 黒崎泰広



本日の話題

宇都宮市におけるスポーツを活用した地域振興について

-  事業：スポーツ×地域振興の取組事例について
国際大会の開催とホームタウンスポーツの振興
-  計画：スポーツまちづく推進ビジョン（本年1月策定）について
総合計画の体系に沿ったスポーツまちづくりの方向性の明示
-  体制：スポーツ行政の推進体制について
スポーツ担当セクションの整備とスポーツ専門人材の育成

スポーツ×地域振興の取組事例について

国際大会の開催とホームタウンスポーツの振興

輝く人の和 つながるまちの環 魅力と夢の輪 うつのみや

6つの未来都市づくりに取り組みます

1 安心して出産・子育てができる環境が整い、次世代の「人づくり」が充実し、誰もが生涯にわたって主体的に学ぶことができる 「子育て・教育の未来都市」

こんなことに取り組みます

- ▶産前・産後のサポート体制の充実や子育てと仕事の両立支援の充実
- ▶学習支援や経済的支援など誰もが夢や希望の実現に向けて学び、活動できるようにするための支援の充実
- ▶グローバル社会・情報社会を生き抜く力と郷土への愛情を育む教育の推進 など



夢を抱いてやり抜く心を持つ
子どもとして、たくましく育ったおとなが、
大人になってほしいいるならこそ学ぶことが
できる環境づくりを推進します!

2 医療・福祉が充実し、誰もが健やかで生きがいを持って自立した生活を送ることができる 「健康・福祉の未来都市」

こんなことに取り組みます

- ▶市民一人一人の日常的な健康づくりや事業所と連携した健康づくりの推進
- ▶認知症対策や医療・介護の一体的な提供の推進、介護予防・生活支援の充実など、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる地域づくりの推進
- ▶障がいのある方への外出・移動支援の充実や公共交通における利便性の確保 など



おとながずっと健康で若々し
くなって生きがいを持って生活できる
まちづくりを推進します!

3 緊急時への備えが万全で、地域のつながりや支え合いが大切にされ、日常生活において誰もが不安なく、安全・安心を実感して暮らせる 「安全・安心の未来都市」

こんなことに取り組みます

- ▶河川の整備やハザードマップの活用などによる河川のはららんや浸水被害への対策
- ▶ICT(情報通信技術)の活用による災害や危機に対する適切な情報発信と対応力の強化
- ▶外国人との相互理解の促進や女性が能力を発揮しやすい環境づくりなど、多様な生き方を尊重する社会の形成 など



地域のみんなの支え合いが
大切にして、いつも安心して生活
できる環境づくりを推進します!



子育て・教育の
未来都市



健康・福祉の
未来都市



安全・安心の
未来都市

交通の未来都市



魅力創造・交流の
未来都市



産業・環境の
未来都市

輝く人の和
つながるまちの環
魅力と夢の輪
うつのみや

将来のうつのみや像(都市像)

4 地域資源の魅力を生かして、人や情報が行き交い活力が生まれる 「魅力創造・交流の未来都市」

こんなことに取り組みます

- ▶自転車や3×3(3人制バスケットボール)の国際大会の開催など、スポーツを活用したまちづくりの推進
- ▶日本遺産「大谷石文化」をはじめとする宇都宮ならではの資源の活用と魅力の発信
- ▶宇都宮の歴史、文化資源、芸術、伝統芸能などに触れる機会の充実
- ▶東京圏に転出した若者が宇都宮に戻るきっかけとなる取組の推進など



まちの魅力を生かして、たくさんの人に
宇都宮へ訪れてほしい、
まちを元気にしていきたい!



5 地域の強固たる経済力の維持・発展と環境に優しい都市の実現が両立する 「産業・環境の未来都市」

こんなことに取り組みます

- ▶地域経済をけん引する産業の創出・育成と企業誘致・集積の推進
- ▶女性の市内企業への就職の促進など女性が働きやすい環境づくりの推進
- ▶中小企業のICT(情報通信技術)利活用の促進、会社経営の円滑な引き継ぎの推進
- ▶農業を支える担い手の確保・育成、農産物のブランド化の促進
- ▶LRTのトランジットセンターへの省エネ・再エネ設備の導入など、LRT沿線の低炭素化の促進など



みんなが働きやすい環境に
やさしいまちづくりを推進します!

それぞれの「未来都市」の取組をお互いに連動させて、
人づくりとまちづくりを一体的に進めることで
夜空に浮かぶ一番星のように輝き続ける都市を目指します。

3 緊急時への備えが万全で、地域のつながりや支え合いが大切にされ、日常生活において誰もが不安なく、安全・安心を実感して暮らせる 「安全・安心の未来都市」

こんなことに取り組みます

- ▶河川の整備やハザードマップの活用などによる河川のはららんや浸水被害への対策
- ▶ICT(情報通信技術)の活用による災害や危機に対する適切な情報発信と対応力の強化
- ▶外国人との相互理解の促進や女性が能力を発揮しやすい環境づくりなど、多様な生き方を尊重する社会の形成 など



地域のみんなの支え合いが
大切にして、いつも安心して生活
できる環境づくりを推進します!

6 魅力ある都市空間の創造と骨格の強い交通ネットワークが構築された 「交通の未来都市」

こんなことに取り組みます

- ▶JR宇都宮駅東口の整備や中心市街地の再開発などによる賑わいの創出
- ▶病院やスーパーなど日常生活で利用することの多い施設の身近な地域への誘導
- ▶LRTの整備、バス路線の充実、交通ICカードの導入など



LRTやバスなど
公共交通を組み合わせ、市内を
自由に移動できる
環境づくりを
推進します!



- ・特に効果が高い先導的な取組
- ・複数の分野の連携が不可欠な横断的な取組
- ・他の分野への波及効果が高い取組



3つのまちづくり好循環プロジェクトを設定

まちづくり好循環プロジェクト(人口減少・人口構造の変化に対応するための3つのプロジェクト)

Project ① 輝く人の和

「NCCが支える共生社会創出」プロジェクト

ネットワーク型コンパクトシティ(NCC)の都市構造をいかに、市民の誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていることができる社会を創出します。



「NCCが支える共生社会創出」プロジェクトのイメージ図



※ネットワーク型コンパクトシティ
中心市街地やそれぞれの地域拠点、産業・観光拠点にまちの機能を集約(コンパクト化)し、それらを利便性の高い公共交通などで連携(ネットワーク化)した都市



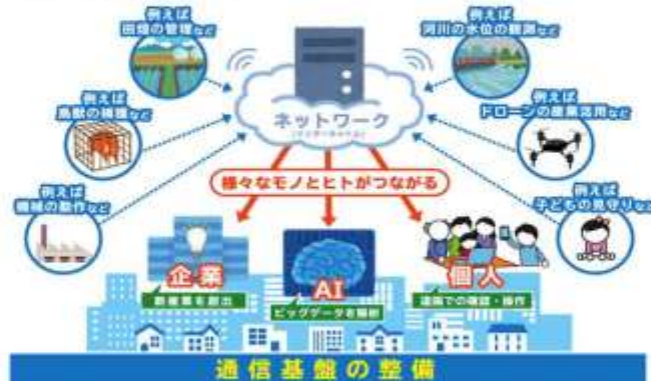
みんなが移動しやすくなる暮らしになります!

移動しやすくなることで、お外に出ることが増えるから人もますます元気に
なってみんなが支え合えるまちになっていきます!

Project ② つながるまちの環

「ICTで暮らしもまちも元気」プロジェクト

「AI(人工知能)」、「ロボット」、「ドローン」などをはじめとするICT(情報通信技術)によって、市民の身近な暮らしの利便性向上や活力あるまちの形成を図ります。



「ICTで暮らしもまちも元気」プロジェクトのイメージ図



ロボットやドローンなどの最新技術でまちを元気に!

情報のネットワークがどんどん発展して、みんなの生活が便利に(ニコニコ)/
ロボットがまちの案内や地域の見守りをしてくれる日がくるかも!

Project ③ 魅力と夢の輪

「ブランド発掘・創造・発信」プロジェクト

市民が誇りを持って住み続けることができ、人や企業に選ばれるまちとなるよう、女性をはじめ、誰もが活躍できる社会を創出するとともに、宇都宮ブランドの発掘・創造・発信を推進します。



「ブランド発掘・創造・発信」プロジェクトのイメージ図



宇都宮の魅力とPR みんなが楽しめるまちへ!

みんな大好きな餃子(ぎょうざ)新しい魅力がいっぱいの大谷!
バスケットボール、自転車のプロチーム、宇都宮をどんどん楽しめて、
みんなが自慢しちゃおう!

Project ③ 魅力と夢の

「ブランド発掘・創造・発信」プロジェクト

市民が誇りを持って住み続けることができ、人や企業に選ばれるまちとなるよう、女性をはじめ、誰もが活躍できる社会を創出するとともに、宇都宮ブランドの発掘・創造・発信を推進します。



「ブランド発掘・創造・発信」プロジェクトのイメージ図



宇都宮の魅力をもっと みんながあこがれるまちへ!

みんな大好きな餃子(ノミ)新しい魅力がいっぱいの大谷♪
バスケットボール、自転車のプロチーム♪宇都宮をどんどん楽しんで、
みんなに自慢しちゃおう!

宇都宮ブランドの 発掘・創造・発信



ヒトやモノの 交流の活性化

創造都市の
実現に向けて
大胆な集客交流策の
展開が必要となる。

3 リーディングプロジェクト

全国的な知名度を誇る本市の観光における最大の食資源「餃子」や、特異な景観を有する観光拠点である「大谷」、国際大会の開催など知名度やブランド力の向上に資する「スポーツ」といった、宇都宮のセールスポイントを最大限に活用し、施策・事業を横断的に結び付けた「リーディングプロジェクト」を設定することで、「観光交流未来都市」実現の加速化を図ります。

また、これら3つのプロジェクトの推進においては、観光全体を支える「おもてなし」の視点を総合的に取り入れながら、推進していきます。

① 「餃子の魅力」フル活用プロジェクト

(事業概要)

本市の観光における最大の食資源である餃子については、認知度が9割を超え、全国にも深く浸透していることから、「餃子と他の観光資源を組み合わせた企画商品の開発」、「餃子をイメージした空間演出による新たな観光スポットの創出」、「餃子の映画や人気スポットを活用した餃子ツーリズムの促進」などに取り組み、餃子を積極的に活用しながら「餃子のまち」のさらなる確立を図ります。

【実現するための関連事業】

- ・餃子のさらなるブランド力の向上
- ・新たなツーリズムの創出
- ・メディア等の活用促進
- ・国内外での誘客プロモーション
- ・新幹線沿線都市等との連携
- ・観光事業者への講習会等の開催
- ・市民のおもてなし意識の理解促進
- ・案内表示等の受入環境の向上



② 「大谷の魅力」フル活用プロジェクト

(事業概要)

観光拠点である大谷については、近年、観光客が増加しており、再活性化へ向けた取組を加速するため、『今、ふたたび色づく大谷を、より色鮮やかに』をテーマに、「観る・食べる・遊ぶ・泊まる」といった観光機能の創出、「観光施設の誘導促進に向けた開発許可基準の弾力化」や、「歴史や魅力を伝える専門性の高いガイドの育成・活用」などに取り組み、世界に誇れる観光地域「大谷」への飛躍を図ります。

【関連事業】

- ・観光空間の磨き上げ
- ・魅力あるアクティビティの創出
- ・大谷石文化の活用を通じた観光振興
- ・メディア等の活用促進
- ・国内外での誘客プロモーション
- ・県内市町との連携によるハブ機能の強化
- ・市民のおもてなし意識の理解促進
- ・ボランティアガイドの育成・支援



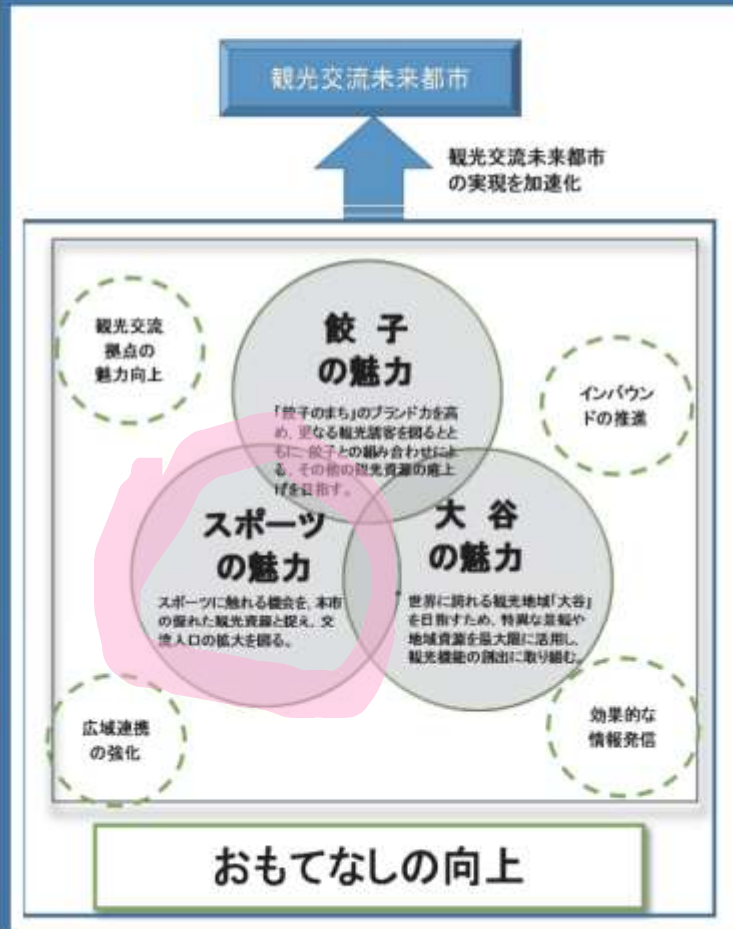
③ 「スポーツの魅力」フル活用プロジェクト

(事業概要)

アジア最高位の自転車ワンデイロードレースである「ジャパンカップサイクルードレース」など世界レベルの大会が開催されるほか、本市をホームタウンとするプロスポーツチームが存在するなどの優位性を活かし、「国際大会の更なる魅力向上」や「現在開催しているスポーツイベントのツーリズムへの磨き上げ」、「各種スポーツにおける観戦環境の向上」などに取り組み、多くの人々がスポーツと触れ合う機会を創出することで、さらなる交流人口の拡大を図ります。

【関連事業】

- ・スポーツツーリズムの推進
- ・メディア等の活用促進
- ・MICE等の誘致強化
- ・近隣都市との連携
- ・市民のおもてなし意識の理解促進



第5章 成果指標と推進体制

1 成果指標

(1) 観光入込客数

2016年 (H28年) 1,483万人
 2022年 (H34年) 1,550万人

(2) 宿泊者数

2016年 (H28年) 156万人
 2022年 (H34年) 163万人
 (外国人宿泊者数 8.3万人 2022年目標 11万人)

(3) 来訪満足度

2016年 (H28年) 79.8%
 2022年 (H34年) 85.0%

(4) 観光消費額

2016年 (H28年) 872億円
 2022年 (H34年) 915億円

2 推進体制

(1) 各主体の役割

ア 市民の役割

宇都宮の魅力伝えるなどの情報発信に努めます。

イ 地域の役割

地域的美観維持や観光客を温かく迎え入れる環境を整えていきます。

ウ 観光関係団体の役割

様々な活動を通して、積極的な情報発信に努めます。

エ 観光事業者の役割

一人ひとりが観光コンシェルジュとして本市の観光資源を積極的に情報提供するなど、おもてなしの心あふれる接客サービスに努めます。

オ 行政の役割

国、県、周辺市町や庁内各部署の動向を把握するとともに連携・調整を図り、各主体が自主的に行う活動への支援を行います。

カ 宇都宮観光コンベンション協会の役割

魅力発信、集客促進のための事業を積極的に展開し、観光に関わる様々な主体と連携を図るとともに、効果的・効率的な観光振興のかじ取り役として、本市観光振興のけん引に努めます。

【宇都宮観光コンベンション協会の在り方】

時代潮流に俊敏に対応できる機動力の高い組織へ変革できるよう、関係団体とともに、組織の在り方について検討していきます。

(2) 推進体制

総合計画実施計画や毎年度の予算編成において調整を図るとともに、観光関係団体との連携や他都市の取組状況を踏まえながら、施策・事業に着実に取り組んでいきます。

また、宇都宮観光コンベンション協会や宇都宮商工会議所、観光・宿泊施設、飲食店、交通事業者などの民間事業者などで構成される「(仮称)宇都宮市観光推進委員会」を設置し、各種事業を推進していきます。

令和2年宇都宮市観光動態調査 宇都宮のイメージ調査

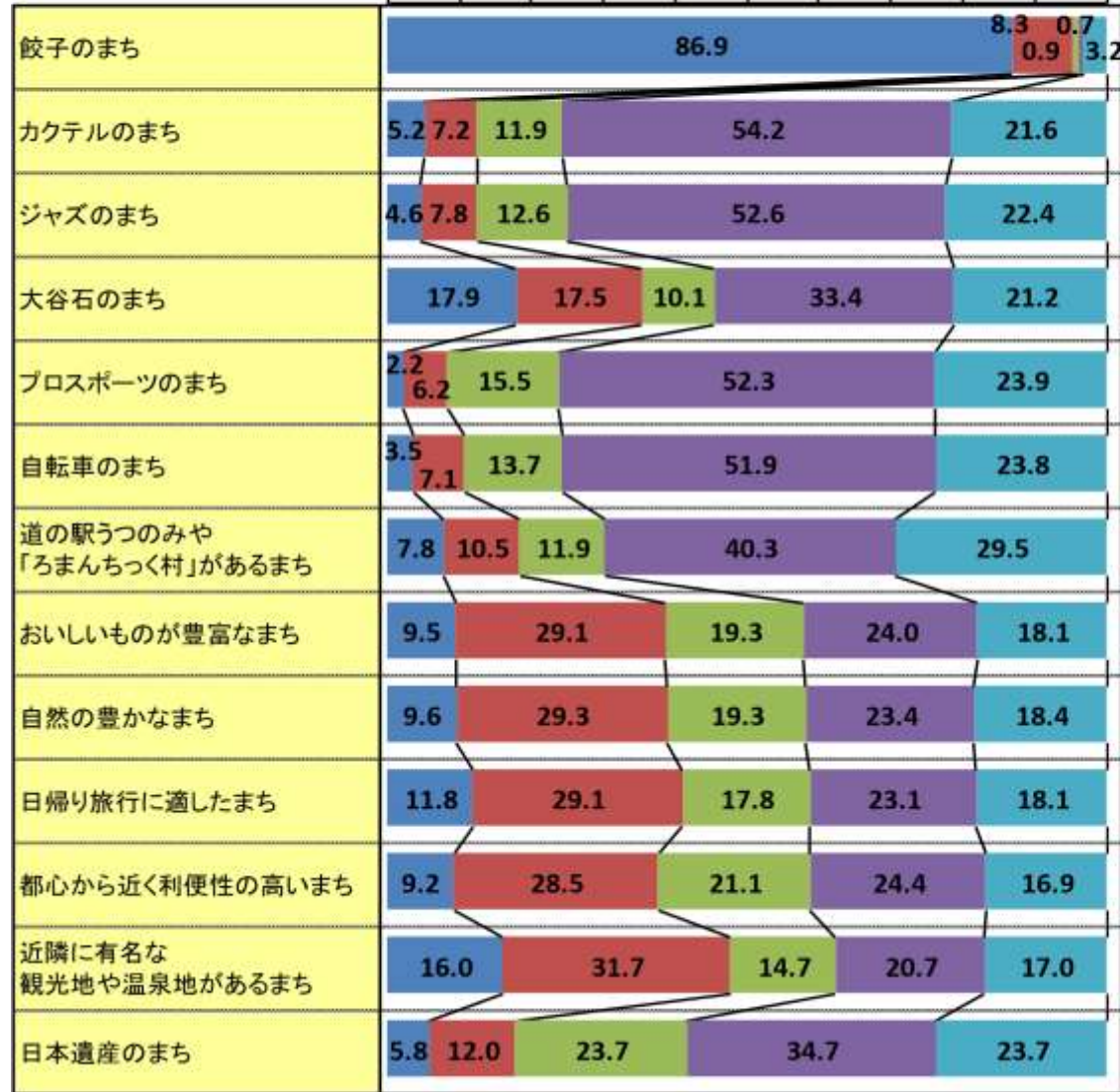
- イメージがある／そう思う
- どちらかといえばイメージがある／どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばイメージがない／どちらかといえばそう思わない
- イメージがない／そう思わない
- わからない

今回(N=3,690)

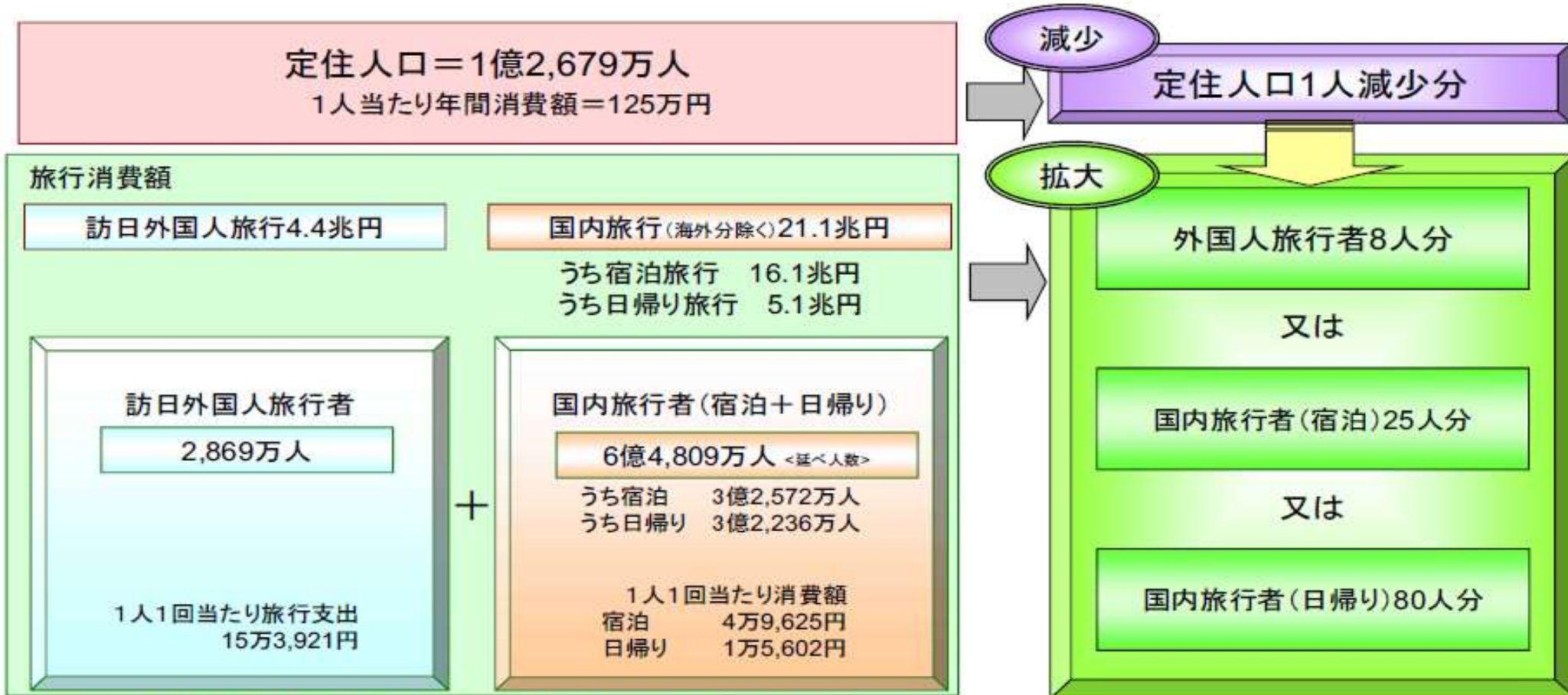
前回(N=3,600)

イメージがある／そう思う 計	イメージがない／そう思わない 計	今回(N=3,690)		前回(N=3,600)	
		今回	前回	今回	前回
95.2	84.1	1.7	6.6		
12.4	11.1	66.1	52.9		
12.4	12.4	65.2	52.8		
35.3	31.3	43.4	37.0		
8.3	9.1	67.8	55.9		
10.6	11.4	65.6	53.0		
18.3	17.1	52.2	41.7		
38.6	30.3	43.3	42.8		
38.9	30.4	42.7	42.1		
40.9	32.4	40.9	40.8		
37.6	29.1	45.5	45.0		
47.7	37.3	35.3	36.8		
17.8	12.6	58.5	55.1		

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



○定住人口1人当たりの年間消費額(125万円)は、旅行者の消費に換算すると外国人旅行者8人分、国内旅行者(宿泊)25人分、国内旅行者(日帰り)80人分にあたる。



定住人口は2017年7月1日現在人口推計(総務省)、定住人口1人当たり年間消費額は2017年家計調査(総務省)による。
旅行消費額の訪日外国人旅行は訪日外国人消費動向調査(2017年)より算出、国内旅行は旅行・観光消費動向調査(2016年)より算出。
訪日外国人旅行者はJNTO(2017年)発表数値、国内旅行者は旅行・観光消費動向調査(2017年)より算出。
訪日外国人旅行者1人1回当たり消費額は訪日外国人消費動向調査(2017年)、国内旅行者(宿泊/日帰り)1人1回当たり消費額は旅行・観光消費動向調査(2017年)より算出。
定住人口1人減少分に相当する旅行者人数は、定住人口1人当たり年間消費額を訪日外国人旅行者又は国内旅行者1人1回当たり消費額で除したものである。(※観光庁資料)

(観光庁資料より抜粋)

⇒ **定住人口の維持 + 交流人口の拡大 = 都市の活力UP**

国際大会をホストする力

⇒ 宇都宮のMICE力を推進



JAPAN CUP CYCLE ROAD RACE in UTSUNOMIYA



アジア最高位のワンデイロードレース
ジャパンカップサイクルードレースの開催

What is “J A P A N CUP” ?

1990年の宇都宮での世界選手権のメモリアルレースとして、四半世紀以上開催、ツールやジロといった世界のトップレースで活躍する選手の真剣勝負を間近で見られる。2010年からは市街地周回コースでのクリテリウムも開催!!

2017 UTSUNOMIYA CYCLO CROSS SERIES



オフロード自転車競技
シクロクロスUCI国際レースの開催

What is “シクロクロス” ?

階段や障害物なども含むコースで開催する自転車オフロード競技で宇都宮では2017年からUCI公認の国際レースを開催中、日本最大の道の駅「ろまんちっく村特設コース」を舞台に世界トップクラスの選手と国内トップ選手が競演!!

EX3



3人制バスケットボール
3×3の開催

What is “3×3WT” ?

バスケットボールのクラブ世界一を決める世界大会、元々「3on3」として知られたストリートバスケットをFIBAが承認した公式オリンピック種目競技であり、チーム・選手は世界基準の公式ルールに基づきプレー。宇都宮二荒山神社の参道が試合会場に!!

道路や広場・公園などの既存の都市インフラを活用することで、IF基準を満たす施設がなくても国際大会の誘致・開催が可能となる。

JAPAN CUP
CYCLE ROAD RACE
in UTSUNOMIYA



スポーツ文化ツーリズムアワード2020 【スポーツツーリズム賞】入賞

(申請団体)

FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Masters 実行委員会



FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Final 2019の開催



取組概要

FIBA（国際バスケットボール連盟）主催の3人制バスケットボール「3x3」のクラブチーム世界一決定戦「FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Final 2019」を開催。宇都宮市のシンボルで、9mを超える宇都宮二荒山神社の大鳥居前・パンパ市民広場に特設コートを設置し、大会を開催。宇都宮を代表するイベントである「宇都宮餃子祭り」、「宮の市」、「MIYA JAZZ IN」を同時開催し、宇都宮の魅力を発信。オープニングセレモニーや試合の合間には、宇都宮伝統の宮室會神輿や国合道のパフォーマンスを実施。

評価ポイント

- 独自性、オリジナリティ、地域らしさの観点を評価。
- 従来のコートにとらわれない海外からも注目される舞台設定や、地元のお祭りとの連携など、集客装置としての可能性を評価。
- 国際性があり地域と結びついた取組である。将来性を評価。

「FIBA（国際バスケットボール連盟）からの感謝状贈呈」
ワールドツアーの継続開催や3x3まちの推進に係る取組に対して、
世界No.1のワールドツアー開催都市であるとの評価を獲得



今年7月の東京オリンピックで
FIBAが宇都宮大会の模型を展示

「スポーツ文化ツーリズムアワードとは」

スポーツ庁、文化庁および観光庁によるスポーツ文化ツーリズムの優れた取組の評価と普及を目的として創設された賞



3x3WT

Teams

Standings

Stats

News

Photos

Videos

Calendar

How to Qualify

Where to Watch

▶ 2024

Utsunomiya

Marseille

Ulaanbaatar

Chengdu

Edmonton

Almaty

Lausanne

Debrecen

Shanghai

Wuxi

Amsterdam

Macau

Abu Dhabi

Ma

Calendar

April 2024

WT Utsunomiya Opener 2024

Utsunomiya Shi, Tochigi Prefecture,
Japan

27 April 2024 – 28 April 2024

Masters

May 2024

Hongcheon Challenger 2024

Zhijiang Challenger 2024

WT Marseille 2024

2つの国際大会に合計15万8千人が来場！ 経済効果は20億円以上！

今年、FIBA※が主催する「3 x 3ワールドツアー」の開幕戦「宇都宮オープナー」を4月末に開催するとともに、オリンピックの出場国を決める予選大会として日本では初開催となる「FIBA 3 x 3パリ2024オリンピック予選大会」を5月3日から開催し、これら2つの国際大会開催期間を「3 x 3 WEEK」と称して、「3 x 3のまち宇都宮」を全世界に発信しました。

また、期間中は「3 x MENU」の提供やFIBAから寄贈されたコート無料開放など、様々な関連イベントの開催により街なかが大きく賑わい、「宇都宮オープナー」は過去最高の来場者数、経済効果となるなど、2大会の来場者は15万8千人、経済効果は20億円以上となりました。

※ FIBA…国際バスケットボール連盟



2024年は「3 x 3」の国際大会を2週に渡りホストし「3 x 3 WEEK」として多彩な取組を実施

「3 x 3 WEEK」期間中の主な取組内容

- ・ 近隣の飲食店と連携した大会のオリジナルメニュー「3 x MENU!」の提供
- ・ 出場選手による市内小学校での交流事業の実施（市内小学校へ3 x 3 公式ボールを寄贈）
- ・ 「3 x 3 WEEK」限定デザインのライトラインー日乗車券の販売
- ・ F I B Aから寄贈された3 x 3 コートの無料開放（フリースローチャレンジの実施）
- ・ ワールドツアー期間の大会会場と関連イベント会場の回遊性向上に向けたバス無料乗車券の発行など

3 x MENU



出場選手による交流事業



3x3 コートの無料開放・フリースローチャレンジ



「3 x 3 WEEK」の開催結果概要について

開催効果

過去最高！

(株式会社あしぎん総合研究所 推計)

項目	ワールドツアー 宇都宮オープナー	パリ2024 オリンピック予選大会	合計
来場者数※1	80,000人 (70,000人)	78,000人	158,000人
経済効果等※2	8億1,690万円 (5億8,640万円)	12億1,600万円	20億3,290万円
公式YouTube等閲覧数	1,900万回 (200万回)	2,400万回	4,300万回
SNS閲覧数	2,600万回 (300万回)	2,900万回	5,500万回

※1 括弧内は2023大会（昨年）の実績

※2 経済波及効果及びパブリシティ（広告）効果

【要因】

近年のバスケットボール人気の高まりもあり、ワールドツアーに初めて来場した方が増加したことや、日帰りをはじめとする来場者の消費単価が約3割増加したこと、FIBAのSNSフォロワー数等が昨年に比べ約80万人増加したことなどによるもの





継続性

- 興行権確保IF合意
- 体制・経費の確保

FIBA Central Board

President



Saud
Ali
AL-
THANI

Secretary General



Andreas
ZAGKLIS

Treasurer



Ingo
WEISS



納得感（共感）

- 開催効果可視化
- 関係者の支持
- 地域課題との連動
【中活・健全育成・産業振興・国際交流等】

拡張性

- 大会拡充（格上げ）
- 付帯事業充実

国際大会を開催し続けるために

本市におけるスポーツ関連施策の概要 ～プロスポーツチームとの連携～

宇都宮市では、「栃木SC」「宇都宮ブレックス」「宇都宮ブリッツェン」の3つのプロスポーツチームが本市をホームタウンとして活動



3つのプロスポーツチームは様々な効果をもたらすことから、本市のまちづくりのパートナーとして、チームとの連携策を実施

※令和5年2月に各チームと包括連携協定を締結



宇都宮ブレックス（バスケットボール）〔B1リーグ所属〕

- 2007年 「栃木ブレックス」創設（現「宇都宮ブレックス」）
- 2007-08シーズン 初代JBL2王者, JBL昇格
- 2009-10シーズン JBL優勝
- 2016-17シーズン Bリーグ初代王者
- 2019年 アーリーカップ準優勝・天皇杯準優勝
- 2021-22シーズン Bリーグ王者
- ◎2022-23観客動員数：124,938人（1試合平均4,165人）
- ◎2022-23ホームタウン活動数：約360回



栃木SC（サッカー）〔J2リーグ所属〕

- 1947年 「栃木蹴球団」創設（現「栃木SC」）
- 1999年 関東社会人サッカーリーグ初優勝
- 2008年 選手オールプロ化
- 2009年 Jリーグ参戦
- ◎2023シーズン観客動員数：122,511人（1試合平均5,834人）
- ◎2023シーズンホームタウン活動数：約200回



宇都宮ブリッツェン（自転車ロードレース）〔UCIコンチネンタルチーム〕

- 2008年 「宇都宮ブリッツェン」創設
- 2014年 Jプロツアー団体総合優勝
ツール・ド・沖縄個人総合優勝（増田成幸選手）
- 2016年 ツール・ド・北海道及びツール・ド・沖縄個人総合優勝（増田成幸選手）
- 2018年 Jプロツアー団体総合優勝
- 2019年 ツール・ド・沖縄個人総合優勝（増田成幸選手）
- 2021年 増田成幸選手東京オリンピック自転車競技（ロード）に出場
JCLプロロードレースツアー団体総合優勝
- 2022年 JCLプロロードレースツアー個人総合優勝（小野寺玲選手）
- ◎2023シーズンホームタウン活動数：約100回

本市におけるスポーツ関連施策の概要 ～プロスポーツチームとの連携～

◎プロスポーツチームがもたらす効果

経済的効果

試合の開催などにより、年間を通じて全国から選手、役員、関係者のほか、多くの観客を呼ぶことができ、これらの方々の飲食や買い物、宿泊などの消費を誘導することができる



社会的効果

本市を拠点に活動するチームの活躍により、シビックプライドを醸成することができる



教育的効果

「小中学校への訪問」や「交通安全教室」などを通して、スポーツの振興や青少年の健全な育成などを図ることができる



本市におけるスポーツ関連施策の概要 ～プロスポーツチームとの連携～

◎プロスポーツチームとの連携の取組

ファン層拡大に向けた広報活動

- ・ポスターの貼付（本庁舎等）
- ・フラッグの掲揚（市庁舎，シンボルロード）
- ・市広報紙への特集記事掲載
- ・ホームゲームにおける宇都宮愉快デーの開催

地域貢献活動の場・機会の確保

- ・各小中学校への周知や希望日程の取りまとめ
- ・市内イベントへのブース出展等依頼



公式戦や練習等に関する活動環境の向上

- ・ホームゲームや練習場の優先予約
- ・河内総合運動公園陸上競技場改修
- ・栃木S Cクラブハウス建設補助
- ・宇都宮市体育館改修 など

その他（職員の派遣）

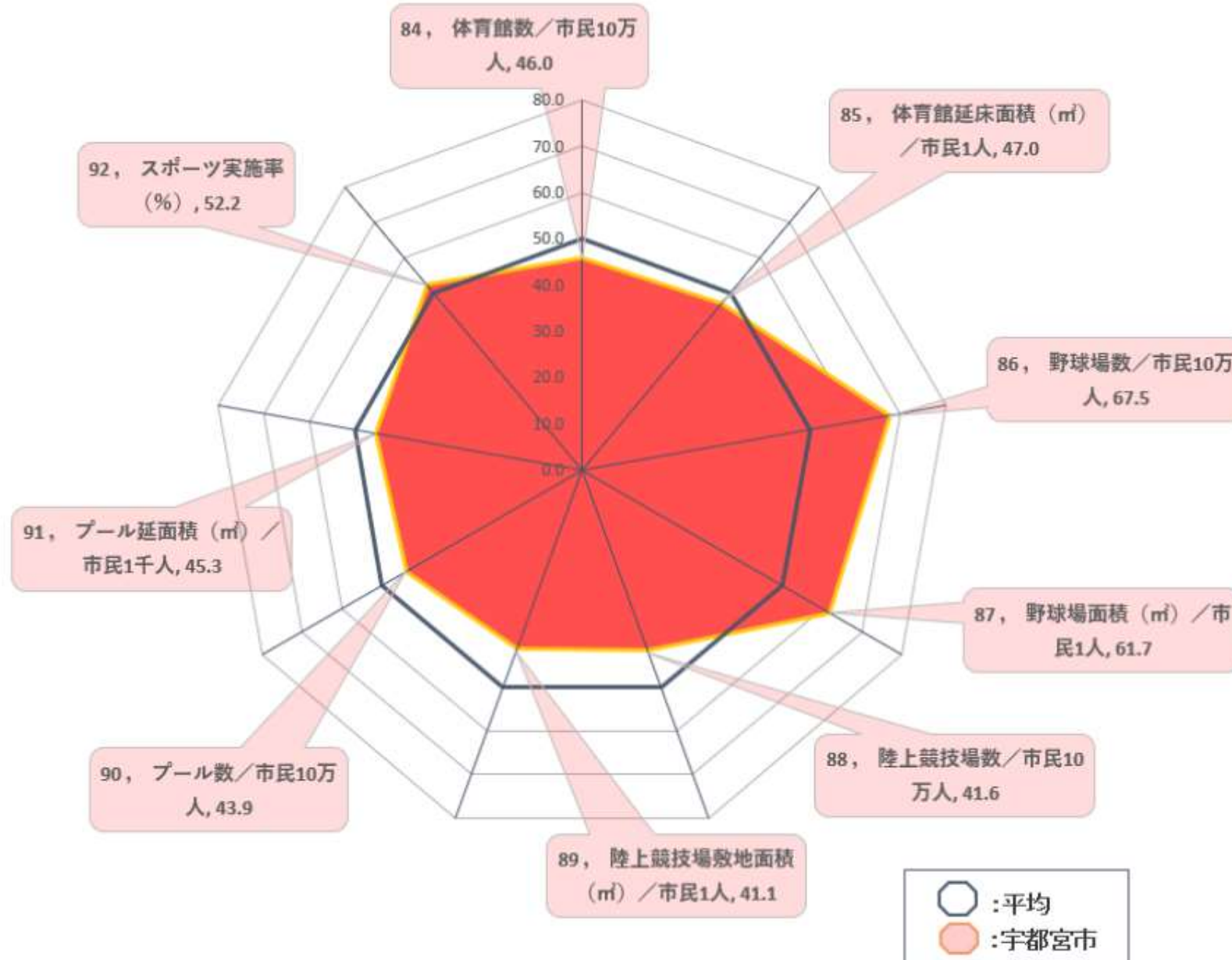
- ・栃木S C：平成19年1月 ～ 平成30年3月31日
- ・宇都宮ブリッツェン：平成22年4月 ～
- ・宇都宮ブレックス：平成24年4月 ～ 令和3年3月31日



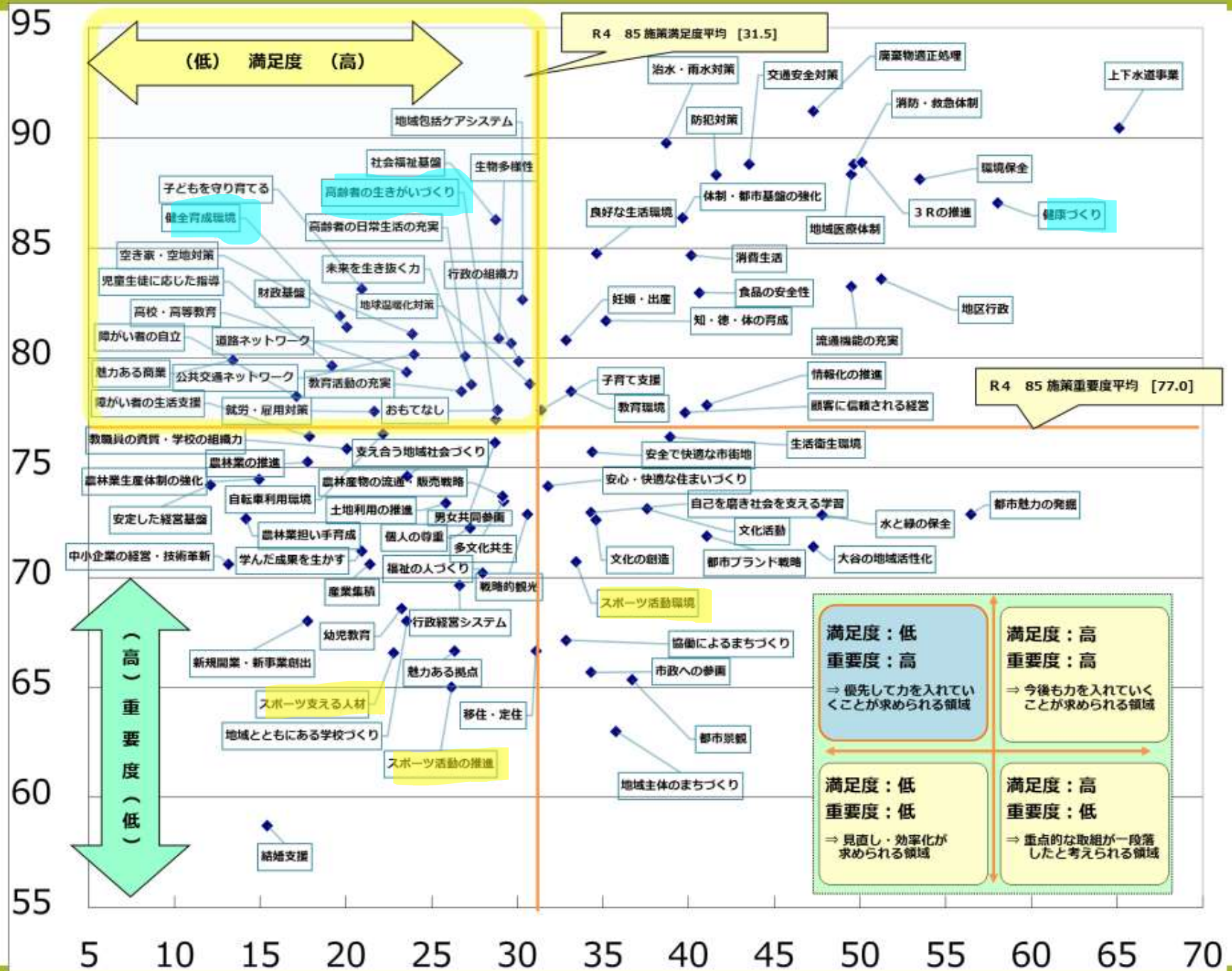


ホームタウンチーム + 自治体

＜3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会の実現＞



1 重要度・満足度散布図
市民意識調査



スポーツまちづく推進ビジョン（本年1月策定）について

総合計画の体系に沿ったスポーツまちづくりの方向性の明示

『スポーツのまち うつのみや』を目指して

～スポーツを通して、市民のウェルビーイングの向上を図る「ビジョン」を策定！～

子どもから高齢者まで、誰もがスポーツを通して自己実現が図られる「スポーツのまちうつのみや」の確立に向け、**スポーツが有する効果や価値を最大限高めていくことで、市民のウェルビーイングの向上に取り組む**「スポーツを活用したまちづくり推進ビジョン」を策定しました。 (R6.1.23)

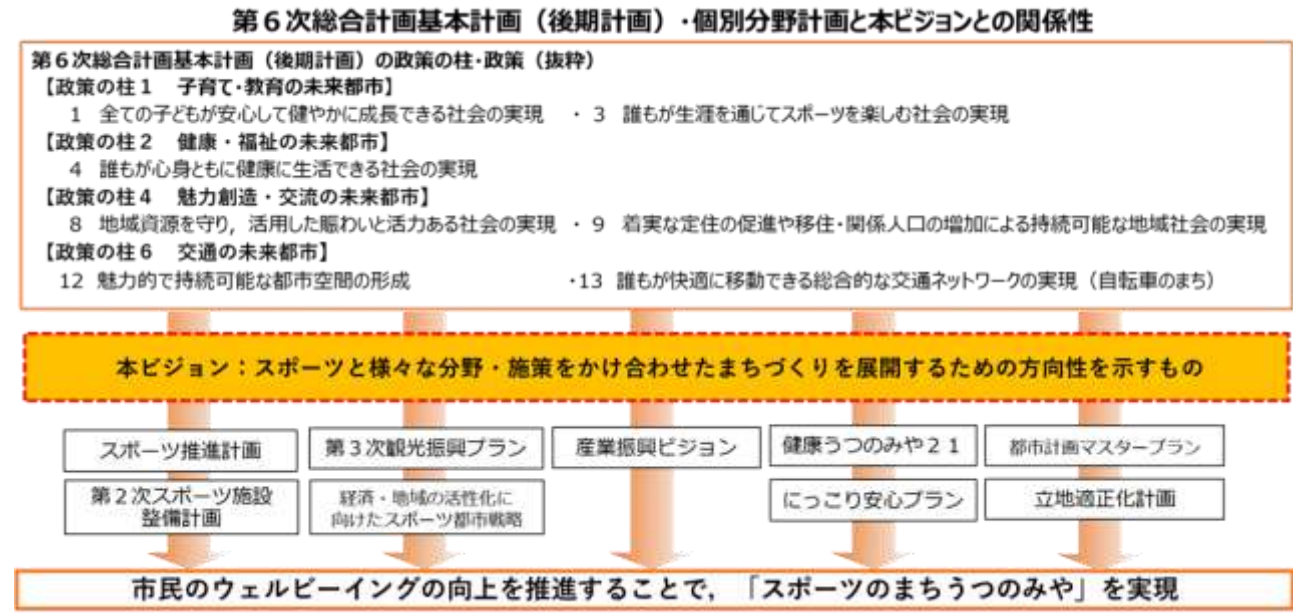
1 ビジョンの概要

(1) ビジョンの位置づけ

本市が有する**豊富なスポーツ資源や地域資源を活用**するとともに、スポーツの成長産業化も見据えながら、**スポーツと様々な分野を掛け合わせたまちづくりを推進**できるよう、総合計画を補完する個別分野計画に対して、分野横断的に方向性を示すもの。

(2) 目標年次

概ね2030年頃を目途



※ウェルビーイング
子どもから高齢者まで、一人ひとりの自己実現が守られ、
身体的・精神的・社会的にも「良好な状態」

「スポーツを活用したまちづくり推進ビジョン」について

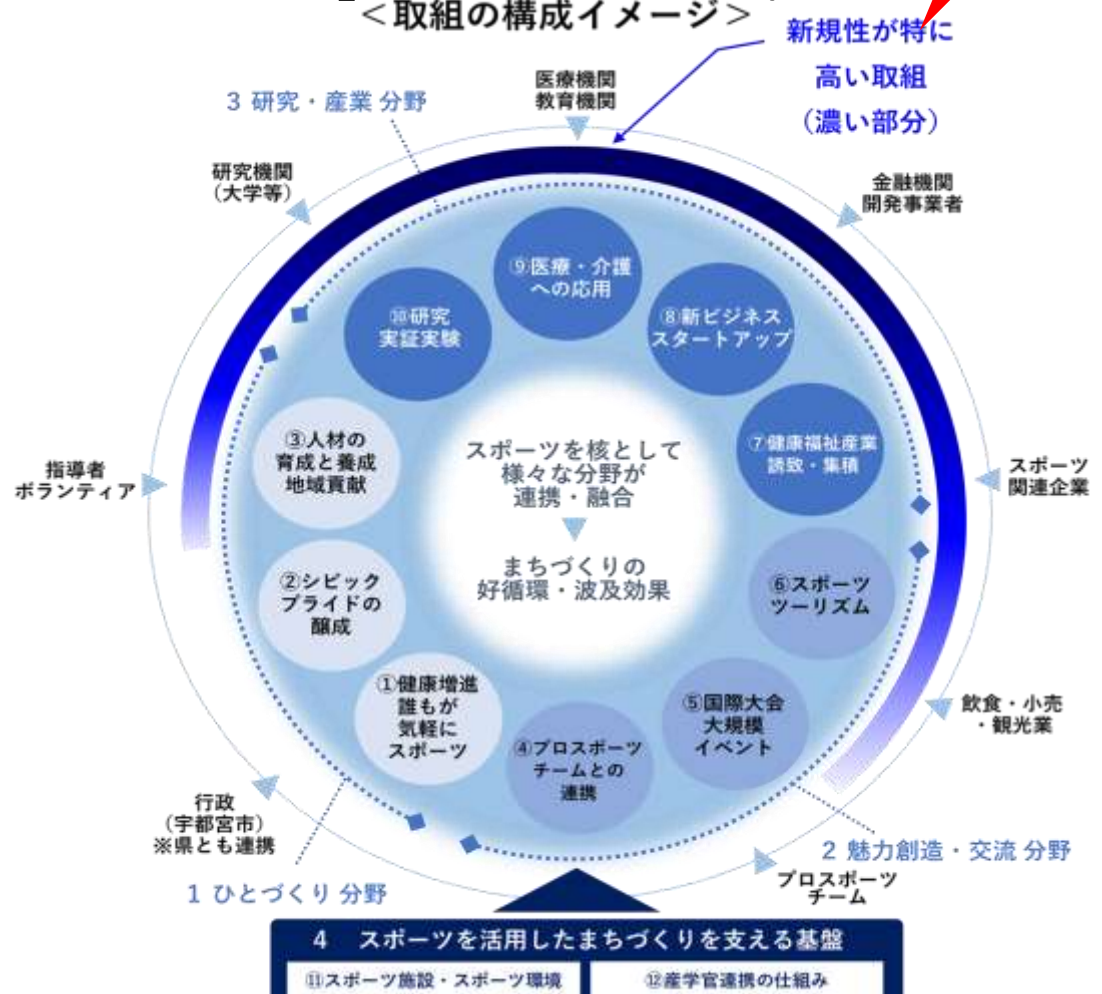
2 特徴（ビジョンの主な内容）

これまでのスポーツを活用した「1 ひとづくり」や「2 魅力創造・交流」の取組をより充実していくことに加え、これらの取組の高度化・高付加価値化に寄与する「3 研究・産業」の取組を新たに推進していく。また、取組や活動を支える「4 基盤づくり」を強化していく。

特徴①

＜分野ごとの今後の方向性と基盤づくり＞

	今後の方向性（主なもの）	4 基盤づくり（主なもの）
1 ひとづくり	<ul style="list-style-type: none"> 子どもから高齢者までの健康増進 シビックプライドの醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 市域全体で、身近な地域で気軽にできるスポーツや健康増進などの環境整備 ⇒北西部地域体育施設や新屋内プールの整備
2 魅力創造・交流	<ul style="list-style-type: none"> プロスポーツチームに対する支援・チームとの連携 エンターテインメント性の高い国際大会等の開催・誘致 	<ul style="list-style-type: none"> 各圏域の特色や強みを生かしながら、都市の「魅力創造・交流」機能を充実 ⇒新アリーナの整備支援、東部総合公園の整備、宇都宮森林公園のリニューアル
3 研究・産業	<ul style="list-style-type: none"> 健康福祉産業等（重点振興産業）の集積 新ビジネスの創出、スタートアップ支援 など 	<ul style="list-style-type: none"> 産学官連携による「研究・産業機能」の向上を図るための基盤づくり ⇒「東部スポーツウェルネスライン」での取組強化 など



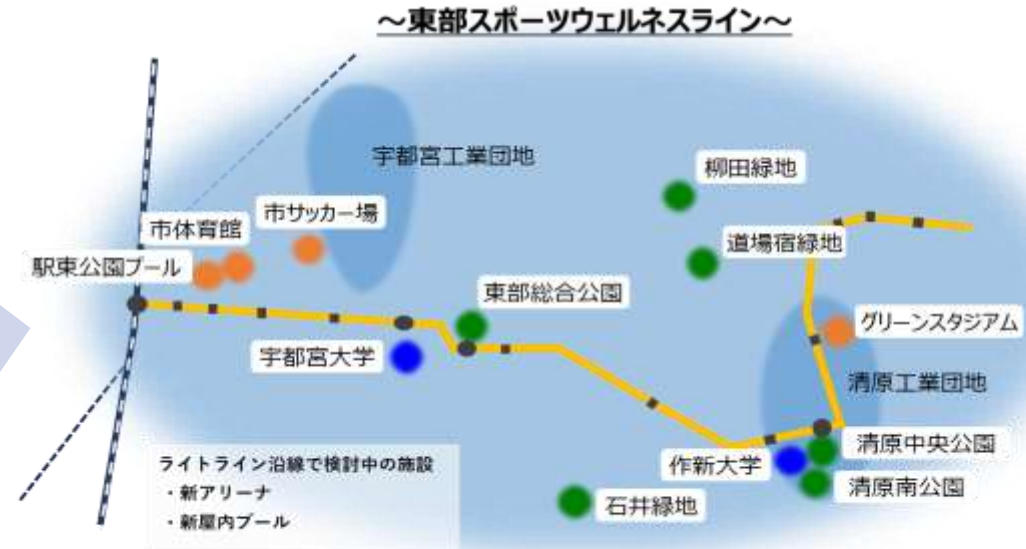
4 スポーツを活用したまちづくりを支える基盤
 ①スポーツ施設・スポーツ環境 ②産学官連携の仕組み

3 各圏域の特色や強みを生かした基盤づくりの強化

「魅力創造・交流」や「研究・産業」においては、各圏域の特色や強みを生かしながら、高い経済効果をもたらす「新アリーナ」の整備支援や、街中ならではの「魅せる」スポーツの展開、スポーツを活用した研究開発・実証実験、新産業の創出などに向けた基盤づくりを強化していく。

ライトライン沿線はスポーツ施設や大学、産業団地が立地するなど、ポテンシャルが高いことを踏まえ、「東部スポーツウェルネスライン」として打ち出し、スポーツと様々な分野を掛け合わせた研究や産業活動など産学官連携の取組を強化していく。

	圏域の特色等
A：中心部	・ ジャパンカップやFIBA3x3など国際レベルの大会や大型イベントを開催。街中ならではの「魅せる」スポーツにより、賑わい創出や市街地の活性化等を積極的に展開。
B：北西部	・ 大谷やろまんちっく村、森林公園など、観光スポットや交流施設、自然体験型スポーツ環境が集積。 ・ 北西部地域における生涯スポーツの受け皿として、地域体育施設の整備に取り組む。
C：北東部	・ 河内総合運動公園には、ドリームプールかわちなど北東部の拠点となるスポーツ施設が集積。プロサッカーチームも活動。河内総合福祉センターなどの健康増進施設あり。
D：南部	・ 栃木県総合運動公園では、栃木県による総合スポーツゾーンの整備促進など、新たな地域の顔となるスポーツ・レクリエーションの拠点として形成。国体レベルのスポーツ施設が集積。
E：東部	・ ライトライン沿線には、複数の大学や産業団地、多様なスポーツ施設等が集積している。 ・ ライトライン開業により交通利便性が高く、トランジットセンター周辺等で地域特性に応じた拠点の形成が図られるなど、ポテンシャルが高まっている。



特徴②

※スポーツウェルネス生活・社会環境を基盤とし、誰もがスポーツを通して、心身ともに健康で生き生きとした自己実現を図れている状態

「スポーツを活用したまちづくり推進ビジョン」について

国や栃木県の計画で掲げるキーワードや取組と、市が今後さらに推進すべき取組を掛け合わせ、「今後、力を入れていく事項」を導出

特徴③

- 国：「第3期スポーツ基本計画」のキーワード
※県計画含む
- 健康増進に資する調査・研究
 - 気軽にスポーツに親しめる場づくり
 - 人材の育成と活用
 - 医療・介護へのスポーツの活用
 - スポーツ医・科学
 - スポーツツーリズムの更なる推進
 - 先端技術・デジタル・ビッグデータの活用
 - 新ビジネスの創出
 - 大学や研究機関・事業者等との連携
 - スタジアム・アリーナ施設の整備 など



- 市：今後さらに推進すべき取組
- 【スポーツ推進計画】
- 子どものスポーツへの興味・関心の高揚
 - 多世代にわたるスポーツ活動の促進
 - スポーツ施設等の整備
 - スポーツ指導者の育成・活用
- 【スポーツ都市戦略】
- 国際的スポーツイベントの差別化
 - プロスポーツチームとの連携強化
 - 年間誘客による経済・地域の活性化
 - スポーツを活用した経済・地域の活性化を最大化・持続化できる環境の構築 など

政策の柱	今後、力を入れていく事項
子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や総合型地域スポーツクラブの活性化 ・指導者の養成・育成，効率的・効果的な練習，アスリート人材の輩出 ・アスリートが運動指導や教育活動等に関わる機会の拡大 ・安全・快適にスポーツ活動を行える環境の整備 ・スポーツによる青少年の健全育成
健康・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ医・科学 ・生活習慣病の予防・改善，ヘルスケア ・医療・介護への応用（リハビリ） ・高齢者，障がい者スポーツ支援
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化・異文化交流 ・地域ボランティアの養成
魅力創造・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツチームとの連携 ・スポーツツーリズム，インバウンド ・シビックプライドの醸成 ・エンターテインメント性の高い国際交流イベント・大会の開催・誘致
産業・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官民連携 ・スポーツテック，ビッグデータ，実証・調査研究 ・新ビジネスの創出支援 ・医療・スポーツの商品化
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通とのアクセスやバランスのとれたスポーツ施設の適正配置など ・自転車のまちづくり

国（スポーツ庁）においては、スポーツの成長産業化を強力に推し進めるため、多様な関係者の連携のもと、スポーツと様々な分野を掛け合わせた取組を創出し、社会課題の解決を図る「SOIP」の全国展開を推進

SOIP推進によりスポーツ市場を拡大



1. スポーツの価値高度化

- ・ARでバーチャルをリアルで体験可能にする
 

（出典：株式会社Meleap）
- ・フェンシングの剣先の動きを可視化する
 

（出典：株式会社スポーツピス）
- ・スポーツチーム等の新たな資金獲得
 

（出典：株式会社Ventus）

2. 他産業の価値高度化

- ・世界最高峰の運動医科学理論、低周波特有の痛みを解消した独自波形の開発力、世界No.1フットボラーの理論
 

（出典：株式会社MTG）
- ・アスリートの健康・コンディショニング管理ノウハウを一般の人々のライフレコーディングサービスに発展
 

（出典：aiwell株式会社）

3. 社会課題の解決

- ・徳島県美馬市と大塚製薬（株）、徳島ヴォルティスは、美馬市版SIBを実施中。
- ・徳島ヴォルティスコーチによる市民向け運動プログラム等を実施し、運動習慣や運動器に係るチェック項目の改善度合いに応じて対価が支払われる。
 

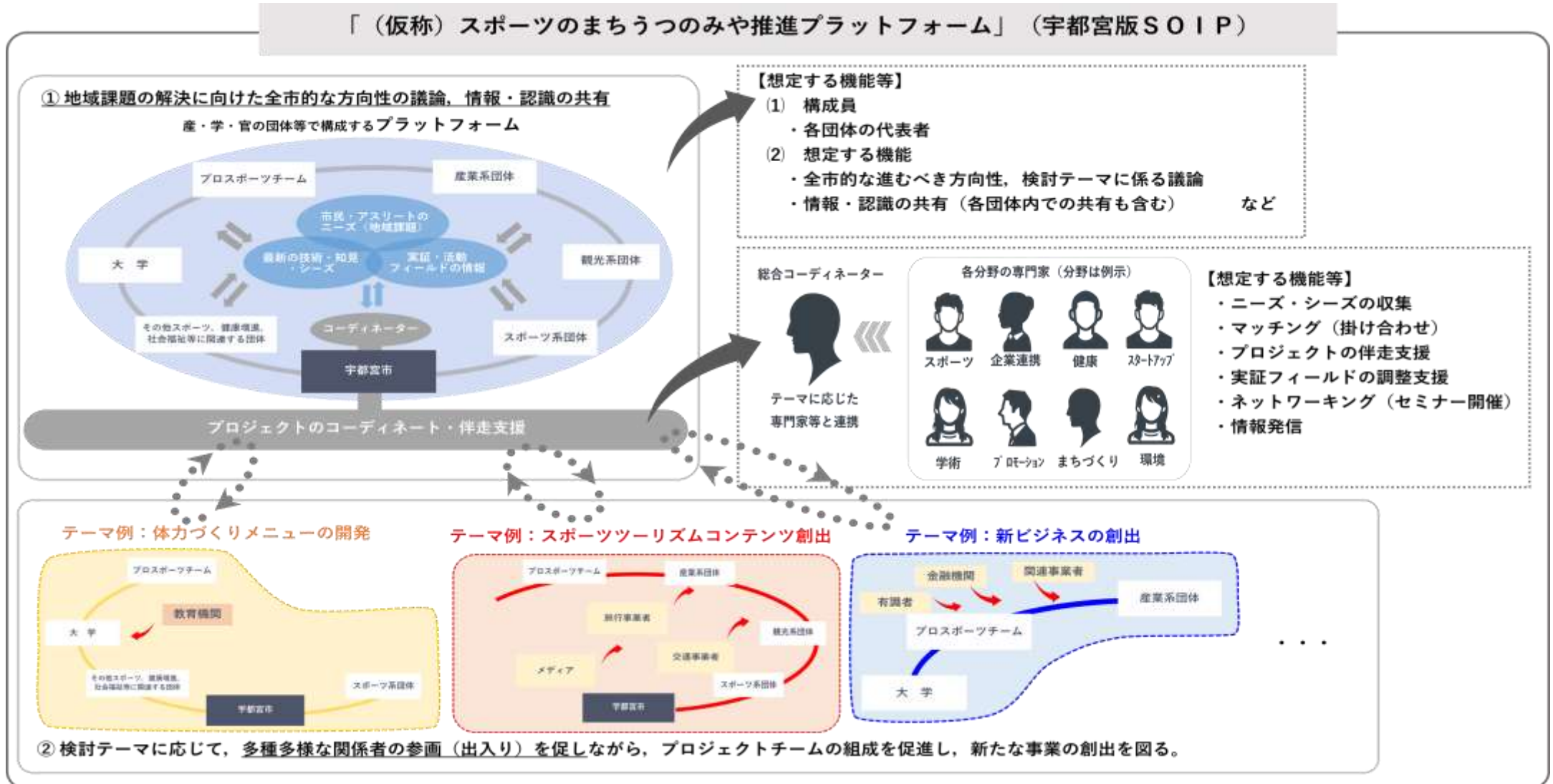
（出典：徳島県美馬市）
- ・ブラインドサッカーを活用した研修メニューを、コミュニケーションスキル向上やチームビルディングのための体験学習教材として事業展開。
- ・研修事業やスポンサー収入が収入の7割程度を占める重要な財源となっている。
 

（出典：日本ブラインドサッカー協会）

推進体制のイメージについて

地域課題等の解決に資する、スポーツと様々な分野を掛け合わせた取組（スポーツ×●●）の創出に向けて、コーディネート機能等を有する階層性のあるプラットフォームの構築を想定

「(仮称) スポーツのまちうつのみや推進プラットフォーム」(宇都宮版SOIP)



スポーツ行政の推進体制について

スポーツ担当セクションの整備とスポーツ専門人材の育成

都市魅力創造に向けた基本的な考え方

◎ 100年後の都市の繁栄を支える，宇都宮ブランド（都市魅力）の創造

◆使命は，交流人口増加&消費額増加を通じた地域経済の活性化

- ⇒ 各種の地域資源（行政資源を含む）を活用・支援しながら，民間の投資を促す取り組みに注力
- ⇒ 行政は，民が輝くための土壌づくりを担う（主役は民，行政はサポート）

◆東京五輪開催（2020年）をターゲットに，スポーツ・文化に係る資源を中心に磨きあげ

- ⇒ 有形・無形のオリンピックレガシーの創出に向けた取組に着手

時限組織の課内室（係）をスタートアップ的に活用しながら体制を拡充

総合計画の体系に沿った組織への再編を実施

教育委員会から移管
自転車の国際大会（JCUP）

経済部 観光交流課
餃子・ジャズ・カクテル
道の駅等の観光施設運営
観光コンベンション協会

経済部 観光交流課
餃子・ジャズ・カクテル
道の駅等の観光施設運営
観光コンベンション協会

総合政策部から移管
プロスポーツの支援・連携
東京五輪ホストタウン関連業務

都市魅力創造室（課内室）
新たなコンテンツの探索
インバウンド事業の着手

都市魅力創造課に拡大
プロスポーツの振興
国際大会の誘致・開催

経済部 産業政策課から移管（都市計画課・文化課職員の兼務）
大谷石産業の振興

大谷振興室（課内室）
大谷の観光拠点化促進
日本遺産関連業務

R6 魅力創造部を新設

- ・都市ブランド
- ・スポーツ
- ・観光MICE
- ・文化

都市の魅力を高める取組を一体的に推進

コンテンツ集約

対象の選定

磨き上げ